

平成23年度 福知山千年の森づくり協議会第1回総会

結果報告（概要）

標記協議会が開催されました。

- ◆日時 平成23年5月31日（火）
午後2時30分～午後4時40分
- ◆場所 福知山市総合福祉会館34・35号室

1 開会・挨拶

（森本委員）

- ・台風の影響で由良川が氾濫して大変なことになっているようだが、東日本ではもっと大変なことが起こっている。
- ・アユモドキは氾濫した河川に生息するので、河川の氾濫がないと生息に影響する。
- ・ケヤキも溪流に多く植生するが、成長が早いので氾濫がなければ、どんどん大きくなってしまふ。この氾濫を人間の生活にどのようにうまく折り合いをつけていくかが、知恵の出し所である。
- ・全員が集まる機会が少ないので、疑問に感じることは何でも話をしてほしい。

2 委員の出席者

25人中17人

3 協議事項

(1) 第1号議案 役員を選出

○赤松委員が会長に引き続き森本委員を推薦され、承認された。

◆会長挨拶

森本会長

- ・皆様の忌憚のないご意見を交わす大事な機会ではないかと思うのでよろしくお願いしたい。

○規約に基づき、会長が仕名野委員、岩佐委員を副会長に指名され、承認された。

◆副会長就任挨拶

①仕名野副会長

- ・森本先生には以前よりお世話になっている。
- ・協議会を発足する時に無理を言ってきた立場であり、会長の求めは断れないので、引き続き協力したい。



協議会開会



森本委員開会挨拶



森本会長挨拶



仕名野副会長挨拶

②岩佐副会長

- ・大江山自然愛好会はあまり知られていない会かも知れないが、昔からある。
- ・大江山自然愛好会が何か役に立てばと思う。

(2) 第2号議案 規約改正(案)の承認

- 主な改正内容は、幹事会の創設であり、承認された。
- 幹事の選任は、会長が行い中村委員、仕名野委員、赤松委員、正木委員、岩佐委員、田倉委員、木船委員、浦野委員の8名で構成されることになった。

(3) 平成22年度事業報告(案)の承認

- 質問・意見はなく承認された。

(4) 平成23年度事業計画(案)の承認

◆意見・質問(協議内容)

【仕名野委員】

- ・鬼嶽稻荷で昨年不幸なことがあり、標識等が不十分なことが原因だと考えている。その後どの様に対応したか、教えてほしい。
- ・会議の進め方で、総会前に少人数の幹事会で物事を決めていくのは大賛成。

【市】

- ・昨年の事故対応後、府が転落場所にガードレール(樹木製)設置された。
ただ、ブロックを積み、その内側にガードレールがあるので、回転が窮屈になっている。
- ・知らない人が回転場に車を駐車し、地元から苦情もあったので、応急的に看板を付けた。
- ・これらについては、先日、府・地元と立ち合って協議をした。雪で傷んだ柵等も修理をすると聞いている。

【仕名野委員】

- ・排気ガスを出すようなものを自然豊かな所に上げるべきではない。
- ・観光か自然を愛するか、どちらに重きをおくか、明確でない。何でも有になっている。
- ・宮津のエコツーリズムでは、観光に徹底している。

【岩佐委員】

- ・計画策定委員会では鬼嶽稻荷神社内に車は入れるべきではないとの意見になっていた。国定公園で自然を守っていかなくてはならない。
- ・100m手前の回転場に車を停めて徒歩で歩いてはどうか。
- ・ブナ林、めずらしい昆虫もいる。せめて回転場からは徒歩のみの入山として規制で



きないか。

- ・看板（案内）でもあれば、知らずに来た人は、奥まで入らず車を停めて歩くことができる。
- ・100mの間の谷川には大とちの木、ほおの木がいっぱいある。車で行くと見逃すので、わずかな距離なので、ぶらりぶらり歩いた方が色んな発見がある。

【市】

- ・貴重な植物等もあり、手前で停めるのが良いと思うが、従来から車が入っており、利用者の利便性の問題もある。
- ・道路は市道であり、回転場はバスが回転するのに必要なスペースである。
底地が民地の可能性があるので、今後、調査や調整をしたい。

【赤松委員】

- ・計画の中に経済的な視点が抜けている。
- ・千年の森ということで、長い間森を育てていく計画で、行政が管理するのではなく、民間（地元）、観光協会、NPO法人等が関与し将来的には守っていく必要がある。
- ・10年、20年後のシナリオを描く必要がある。
- ・自然林、植林がしてある部分をどう守るか、経済的に使えるように検討するため、勉強会をしてはどうか。
- ・熊、鹿、猪が出て、地元の人でも山に入れない現状であり、見向きもされない中、1年間に何回かのイベントだけでは外部から来る人に千年の森をPR出来ない。
- ・地元の人々が、ある一定この様な使い方だったら自然を壊さず、且つ、経済的には何とかするのはないかという研究を、難しくてもスタートしなければならない。その部分が抜けているのではないか。

【市】

- ・幹事会で相談する。

【赤松委員】

- ・その他の項目に「勉強会」を追加してはどうか。

【森本会長】議長

- ・その他の項目に「勉強会」を追加してはとの提案があり、皆さんに諮りたい。



賛成の声有。

※その他の項目に「勉強会」を追加する。

【岩佐委員】

- ・他に、元伊勢観光センター（ビジターセンター）の活用はどうなるのか。
観光案内所の看板は出ているが、案内所の今後の活用方法を、参考までに聞かせてほしい。

【市】

- ・観光案内所の管理は大江支所、観光振興課で行っている。現在は、有志の方で、そば・簡単な定食を提供している。
- ・それ以外のブースは観光案内的なスペースとし、支所と協議の上、簡単なパンフを置いてPRに努めている。
- ・道路沿いに国定公園案内所と書いてあり、案内的な要素がもっと強くなればよい。
- ・活用の充実については今後検討し、今年度中に一定方向を出していきたい。
- ・観光ガイドは、3年前より取り組み、現在17名の方にお世話になっている。
- ・市主催の観光ボランティア養成講座を受けた方の中から、有志による観光ガイドの会を組織している。
- ・ガイドの方々に、市内ガイドやエコガイドの部分を含めてお世話になっているが、市内ガイドが中心で、エコガイドの部分弱くなっている。
- ・2年前に専門の講座をしたが、昨年は実施していない。今年はエコツアー講座を準備して、10月から11月（月2回位）3～4回講座を開きたい。決まったら案内をする。

【森本会長】議長

- ・計画に入っていない。

【市】

- ・ガイド養成講座（エコツーリズム関係）を事業計画に追加する。

【赤松委員】

- ・支所管理＋観光協会が中心になって元伊勢観光センターの利用を調整している。
- ・土・日中心にそば屋を開いている。
- ・入口・奥の食堂の前で、観光案内所を試験的に観光案内部分として使う。



- ・現在5/28～6/26（月休）で大江山花の写真・セミの標本展を10時から16時まで開催しているので、見に来てほしい。
- ・観光協会のメンバーや事務局の市嘱託者が常駐し観光案内所を兼ねている。
- ・毎週土曜日はディスカバリーウエストの集合場所になっているが、それ以外の方にも観光案内をしている。

【森本会長】議長

- ・鬼嶽稲荷の車道の見直しはどのようにするのか。

【市】

- ・道路は市道で、神社は元伊勢、それぞれの管理となっており、市の方で調べて検討させて頂きたい。

【森本会長】議長

- ・あそこまで一般の車両を入れる必要はないのではないか。
- ・改善する所は改善し、整理していく必要がある。
- ・看板も自然環境になじむようなもので。

【岩佐委員】

- ・ヒュウガミズキは大江山スキー場付近で初めて発見された木で、今は和田山、舞鶴でも植生がある。蛇紋岩地帯に生え、春一番に黄色い花が咲く。大江山＝ヒュウガミズキである。
- ・日本100名山で大江山は、タニウツギの山となっている。
- ・ヒュウガミズキのあとはタニウツギの構想を持っている。
- ・タニウツギはつきやすい木である。

【江浪委員】

- ・福知山で20数年前林道の緑化に苦慮した。
- ・鉢山の酸性がPH3であり、木も植えてあるが育ちにくい。
- ・林道の法面を緑化するのに、スギナを植えたらいいと聞いている。
- ・試験的に今年はやるということだが、これまで失敗した例もある。

【森本会長】議長

- ・失敗された場所は？

【江浪委員】

- ・大江山のモニュメントのある林道である。

【森本会長】議長

- ・現地は、酸性土壌が時々出てくることもあり、銅山では、熱帯性鉢床の場所があり大変だが、大江山鉢山の跡地は違う。蛇紋岩地帯の場所であり、今ドウザンツツジが一番美しい時でもある。
- ・実施する時は、土壌調査をして、PHを測ってやる必要がある。
- ・緑化の失敗は初期の管理が重要である。
- ・苗を化学肥料で育てる→自然条件に合う苗→種の植え付けが一番良い（菌根菌と共生）→実験要素・計画を立て場所を選定→失敗したら原因を確かめる→もう一度検討→最初に戻る、という＜順応的管理＞が必要。

【岩佐委員】

- ・以前ふじを植えたが、ふじはうまくつかず失敗。
- ・指定された場所には何も生えていない、近くには松が育っている。
- ・周辺にはヒュウガミズキが樹生しているので、指定された場所にも、ヒュウガミズ

キは育つのではないか。

【森本会長】 議長

- ・一度見に行って調べてみたい。
- ・広報は大切。情報発信をもう少し充実したらどうか。
- ・可能なことは何でもやる、人がやってくれるのではなく、例えば、委員はみんなが広報する方法もある。
- ・ケヤキ植樹経費に獣害対策は考えているのか。

【市】

- ・周囲を鹿あみ（ネット）で囲って対応している。
- ・草刈りをして苗を食べられたりして、なかなかうまくいかないが、対策を講じながらやっている。

【森本会長】 議長

- ・鹿の事も含めて勉強会をやれば。
 - ・4号議案については・・・
 - 勉強会
 - ガイド養成講座
- を追加して、委員を含めて柔軟に進めていく。

※事務局から規約改正及び平成22年度事業報告、平成23年度事業計画を説明し、全て承認を得た。但し、事業計画については追加事項がある。

4 意見交換

【中村委員】

- ・千年の森づくり協議会の活動については、今はどうやっていったらいいかわからない。
- ・大江山に樹齢千年以上の木は無いようだ。
- ・佛性寺付近には樹齢200年から300年のスギの木があるようなので、仕事の合間に調査しようと思っている。
- ・源頼光の伝説の残っている山道を秋までに整備が出来たら、この道を登山コースとしてPR出来ないかと考えている。



【赤松委員】

- ・今年の国文祭にかこつけて何か出来ないかと考えている。
- ・天座地区に関しては相談も受けているので、観光協会としても、バックアップしていきたい。

【正木委員】

- ・この2年でケヤキ苗を670本植えた。昨年は竹の子が生えて大変だった。今年は雪が多かった。小さい苗を1人前に育てるのは大変。
- ・ケヤキの成長は子どもたちが楽しみにしている。



左から浦野委員、正木委員、赤松委員、岩間委員、中村委員

- ・千年の森づくり事業の広報がうまくいかない、三岳（地元）の人でも知らない人が多い。
- ・三岳山の家に来てくれる都会の子どもに森づくりの話もしているが、広報が大切。
- ・千年の森の計画には、環境保全、農林・観光振興とあるが、農林業振興が抜けているのではないか。

- ・鹿は何を植えても食べてしまうので、獣害対策も必要であり、素晴らしい山、金になる山にすることは、大変なことと感じている。

【浦野委員】

- ・モデルフォレスト毛原つつじの森づくりは、継続して進める。
- ・本年度も活動を毎月第2土曜日にしている。
- ・家族を含めたレクレーションの場であり、伐採した木を利用して、シイタケ、ナメコを作っている。
- ・エスペックとは、合同で年1回、今年は10月頃に地元の方も含めて、大々的に取り組もうと計画している。
- ・7月の6者会議で地元の要望も聞きながら、毛原のつつじの森をよみがえらせる作業を続けている。
- ・機会があれば一度覗きに来てほしい。

【木下委員】

- ・府の自然環境保全課は国立・国定公園を整備していく担当課である。
- ・環境省とやり取りをする課で、自然環境整備交付金を活用していく立場にある。
- ・今年度の環境省の交付金は、東日本の災害があって、当初予算より保留がかかっていたが市に関する申請交付金は満額活用出来るようになった。

【江浪委員】

- ・鳥獣被害対策は私どもの所管である。
- ・市の林業振興課と連携しながら対策を進めている。
- ・昨年1年間で福知山市では、3000頭を超える鹿を捕獲したが、なかなか被害が収まらない。
- ・千年の森でケヤキの話が出ているが、き



左から江浪委員、
木下委員



左から、渡邊委員、山口委員、
松尾さん（田倉委員代理）



軽野委員



渡邊委員

ちりとした対策をしないとなかなか将来に繋がらない。

- ・ 昨年も、植樹祭に参加したが、人工的に作ったものが、山の中で育つのは難しい。何%か残って、将来につながる森が出来ることが理想である。
- ・ がんばって管理をして行かなければならない。
- ・ もっと千年の森のPRをしていきたい。



【渡邊委員】

- ・ 昨年はじめて委員として参加した。
- ・ 不勉強で、地域のみなさんと企業が一緒になっての取り組む事が、今頃わかった。
- ・ 千年の森づくり事業の取り組みは解りにくい。
- ・ 今後は会合のたびPRする。
- ・ 元伊勢観光センターで観光ガイドの赤松さん（本協議会員）から聞いた話が大変良かったと、帰りのバスで皆が喜んでいた。今年もお願いしたい。



【山口委員】

- ・ 毛原の平安時代の道（宮津へぬける道）を地山会の活動で登った。
- ・ 宮さんから上まで登った。（地蔵さんの所まで、誰でも歩けるようにしてある。）
- ・ 大江山、三岳山以外にも良い山がたくさんある。
- ・ 登山してみると、新しい発見が毎回ある。
- ・ 三岳山に自然林をすべて伐採した所（記念碑有）がある。手入れもしてあるようなので登山コースに入れたらどうか。
- ・ これまで私は参加したことがなかったが、計画を見るとたくさん行事がある。カレンダーなど作ってPRしたら、参加者も増えるのではないか。

【田倉委員】 代理：松尾さん

- ・ 環境保全団体として、環境会議は市の環境基本計画を作成してきた団体である。
- ・ 企業（15団体）+個人で構成されている。
- ・ メンバーの中には、パナソニック・エスペックが所属しており、つつじの森をよみがえらせる活動をしている。
- ・ 会議の中には、小さな環境に関する活動をしているプロジェクト（里山・由良川グループ）があり、間接的に千年の森づくり事業に関わっている。

【軽野委員】

- ・ 皆さんの話を聞くと、この地で生まれ、この地で育った私としては、胸がいっぱいになる。
- ・ 農林業の振興に役立つことがあれば、一緒に考えていきたい。

【森本会長】 議長

- ・ 山口委員から、大きなカシの木があると聞いたが、京都はナラ枯れで大変である。
- ・ 大きな木からやられている。大きな木が枯れたら大変なので、情報交換し、勉強会

で取り組んではどうか。自然林がどこにあるか、皆で認識していくことも大切。

【岩佐委員】

- ・内宮さんの岩戸山自然林は全山カシの木で構成されている。

【森本会長】議長

- ・大きな木に虫が入って、菌が繁殖して枯れる。枯れたものはすぐ伐り、大丈夫なものには手当をする。
- ・虫は木の下の方に入る。
- ・ナラの木が枯れたらわかるが、枯れるまでに手を打たないといけない。

【江浪委員】

- ・佛性寺で、平成7～8年にナラの木が大被害に遭い、その後、舞鶴へ広がって行った。
- ・夏に被害調査し、伐採、燻蒸して被害対策をした。

【岩佐委員】

- ・佛性寺地区のナラは全滅した。内宮に被害が広がったら大変なことになる。

【森本会長】議長

- ・京都東山のシイもかなり枯れている。
- ・色々とモニタリング、情報交換して対策をする必要がある。

5 閉会挨拶

【岩佐副会長】

- ・平成23年度の事業計画は無事に可決した。
- ・今年1年間、皆様の知恵を借りながら進めていく。
- ・千年の森については壮大過ぎて、当初は意味がわかりにくかったが、今年は形になってきた。
- ・千年を見通してのことなので、急に変わることはない。
- ・遠くの未来、近くの足元を見ながら、森づくりを進めていく協議会なので、色々と皆さんの意見を聞きながら、皆が思ったことを言って、その中から実現するものから、やっていくのが本会の主旨ではないかと思う。
- ・子どもが大活躍をしているので、教育関係の方も参加をお願いしたい。
- ・未来を担っているのは子どもなので、子どもの先頭に立ってもらうからには、その認識を持って参加をお願いしたい。

